

令和7年度 淡路市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：10名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・ 認知症の人と家族の相談支援
 - ・ 多職種協働研修
 - ・ 社会参加活動整備

報告者氏名： 富本恵梨、井上詩織、坪井佐和子

淡路市 認知症施策全体図

認知症施策

(第9期介護保険事業計画)

①認知症に関する正しい理解の普及啓発・

本人発信支援

②認知症の本人と一緒に取り組む地域づくり

③認知症予防への取組の推進

④認知症の早期診断・早期支援体制の充実

⑤高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築



標題 認知症の人本人の社会参加・発信への支援にむけた取り組み

共に歩むミーティング



状況：約5年前から不定期開催。

メンバーの入れ替わりもありながら、R6年からは月1回定例開催している。

内容：調理、運動、外出など、メンバーの好みや特技に寄せたプログラムを実施。

メンバー：認知症の人、家族、サポーター。（約10～13人）

課題：メンバーの増加と重症化により、スタッフの数を確保する必要が生じた。

⇒工夫点：サポーターにも楽しみややりがいのある内容、役割を設定する。

多職種で関わる機会を持つことで、スタッフの対応力が向上した。

共に語るミーティング



交通が不便。家族の負担を増やしたくない。



状況：R7年、Aミーティングとは別地域で立ち上げた。月1回開催している。

内容：座談会中心。

メンバー：認知症の人、認知症状のある人（約4～6人）

工夫点：認知症状に気が付き、1人で不安を感じている人がいる。

⇒身近で安心して集える場所の選定を心掛けた。

自分の力で行ける。よく知っている。他の人に知られたくない。そんな場所がいいよね。



参加のハードルを下げるため、サポーターの協力を得た。

話し合いやすい雰囲気づくりを目指し、交流できるよう工夫している。



ひょうご認知症希望大使を迎えて（両ミーティング合同開催）

経緯：特に共に歩むミーティングにおいて、毎月楽しく集う中でこぼれる思いは拾えるけれど、

皆の認知症に関する本音をしっかり聴くことが難しい。話し合いのきっかけがほしい！

⇒9月 県を通じて大使に活動依頼
12月～2月 大使、活動サポーターと打ち合わせ
2月 座談交流会実施

大変な経験をして、
すごく工夫されてたね。
色々したいことがある
気持ちも分かる。



効果：大使の発信を受けて、メンバーが認知症に関する思いを語るきっかけとなった。
メンバーが輪になって話し合う雰囲気慣れてきた様子が見られた。

ここには笑いに
来ているよ。

ここに来たらほっとする。
みんな同じ気持ちやもんね。



そんな話もあったかな。
ご飯はおいしかったね。



課題：過去の意見を振り返ろうとするが、記憶障害の程度により、皆で話を合わせるのが難しい。
話し合いのためのスタッフの力量不足。

困ってもいないし、特に希望もない。これ以上
迷惑かけないように生きていだけ（苦笑）



今後に向けて

- ミーティングの充実
交流が必要なより多くの人に参加しやすい工夫と啓発方法を検討する
ミーティングを通し、ピア活動の推進を目指す。

認知症疾患医療センターの
MCI教室からつながった。



近くの人だったら、ミーティ
ングに誘いに行ってもいいよ。

- 本人の声をより多くの市民に届ける
ミーティングでの話し合いからメンバー、家族の声を淡路市認知症施策推進計
画に反映する。
ミーティングメンバーから策定委員の立候補者を募り、認知症に関する思いを
発信する。

認知症になっても地域で安心して
暮らしたい。



最後に・・・

年を取り、認知症になって、日々の希望について考える機会すらない人も多いです。私たち推進員は、ミーティングメンバーと過ごす中で、認知症になっても自分らしく、楽しみと自信を持って過ごしてほしいと願っています。思いを口にしたり形にするのは難しいですが、ミーティングを通して得た楽しみや安堵の気持ちを他の人に伝えられるよう、一緒に考えていきます。